

2011年度事業計画等

I. 2011年度事業計画

2011年度も昨年度同様の予算編成とし、美術振興のために、美術に関する調査研究の助成を中心に、出版援助、国際交流援助、美術普及振興事業を行う。

1. 美術に関する調査研究の助成（予算額 3,000 万円）

美術に関する調査研究の助成は、当財団の最重点事業でもあるので、事業予算は、財団賞 100 万円を含め 3,000 万円とする。

2. 出版援助と国際交流援助（予算額計 900 万円）

出版援助に 500 万円、国際交流援助に 400 万円を計上する。

3. 美術普及振興（予算事業 730 万円）

美術普及振興としては、研究助成と財団賞授賞式に続いて行う研究発表会のほか、恒例の秋の美術講演会を行うと共に、『鹿島美術研究』及び『講演録』を刊行する。

II. その他審議事項

1. 本年5月授与 美術に関する調査研究助成者

去る1月14日開催の選考委員会で選考が行われた。その結果、申請87件に対し別紙「助成内定者名簿」の49件（一人当たり平均助成額約59万円）の採択が内定し、本理事会の承認を得て決定される。

上記内定者から辞退者が生じた場合は、次点の3件から順次繰り上げることとし、計49件を助成することとする。

2. 第18回鹿島美術財団賞授賞者

鹿島美術財団賞は美術に関する調査研究の助成を受けた研究者のうち特に優れた研究者を奨励するために1993年に創設されたものであるが、第18回財団賞については、昨年12月17日開催の選考委員会で厳正な選考の結果、次に記載の2名が

授賞者に内定しており、本理事会の承認を得て決定される。

授賞者は、来る 5 月 13 日の授賞式でそれぞれに賞状と賞金 50 万円が授与される。

第 18 回鹿島美術財団賞授賞内定者

小林亜起子（36歳、東京藝術大学大学院 美術研究科 博士後期課程）

研究主題：フランソワ・ブーシェによる王立ボーヴェ製作所のタピスリー連作
—〈神々の愛〉について—《バッコスとエーリゴネ》の愛をめぐって—

ラウンチャイクン寿子（49歳、福岡アジア美術館 学芸課 収集展示係長）

研究主題：日本の植民地統治下の美術活動
—植民地官展作家と審査員の作品の調査研究を中心に—

なお、授賞者に次ぐ優秀者には、次の 2 名が選ばれた。

小泉順也（35歳、東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」特任研究員）

研究主題：コレクターとしてのモーリス・ドニ
—ゴーガン・コレクションの形成と展覧会の機能をめぐって—

清水紀枝（28歳、早稲田大学大学院 文学研究科 博士後期課程）

研究主題：12・13世紀の日本における如意輪観音像の展開

授賞式後の研究発表会では、以上の 4 名の方に発表していただく予定である。